

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	サウンドクリエイターコース
授業科目	アドバンスレッスン1
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	下條慧
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	作曲に必要な知識を学ぶための総合的な授業。「作曲ゼミ（週2コマ）」「作曲法」「ミックス」「アレンジ」「楽器レッスン」「コードアナライズ」「卒業制作（週2コマ）」の8つの授業で構成される。 下記に記載されている授業テーマは、前期後期に共通する内容であり、別紙「ベーシックレッスン2」も同様である。 作曲ゼミは個人レッスン、他の授業は全体授業である。
到達目標	A.ノンダイアトニックを用いながらコード進行を作成できる B.メロディを作成できる C.楽曲のミックスができる D.楽曲のアレンジができる E.フルコーラスのボーカル楽曲を作成できる
授業方法	弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電気電子楽器の中から重要な楽器を取り上げ形状、演奏映像を見ながら構造や演奏方法、音色、特徴を学習。 楽器によってはライブ演奏で実際の響きを体感する。
成績評価方法	学習した楽器のまとめを14、15回目にて授業内発表を行う。 これを60%(知識のほかに感想・思考・自分の作品にどう活かせるかを発表させて評価する) 授業後に提出するレポートや、主に学習に取り組む態度を評価し平常点40%とする。
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	授業内で使用する映像や動画。実演奏。

授業計画	
第1回	個々のレベルをチェック
第2回	モジュレーション
第3回	実践
第4回	マスタリング
第5回	リードシートを書けるようになる
第6回	マイキング
第7回	マイキング、ミキシング
第8回	弦楽器
第9回	管楽器
第10回	シンセ音
第11回	既存曲の分析①
第12回	既存曲分析②
第13回	既存曲の分析③
第14回	前期発表会に向けて楽曲を仕上げる
第15回	前期で作った楽曲の発表（フルコーラス

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	サウンドクリエイターコース
授業科目	アドバンスレッスン1
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	下條慧
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	作曲に必要な知識を学ぶための総合的な授業。「作曲ゼミ（週2コマ）」「作曲法」「ミックス」「アレンジ」「楽器レッスン」「コードアナライズ」「卒業制作（週2コマ）」の8つの授業で構成される。 下記に記載されている授業テーマは、前期後期に共通する内容であり、別紙「ベーシックレッスン2」も同様である。 作曲ゼミは個人レッスン、他の授業は全体授業である。
到達目標	A.ノンダイアトニックを用いながらコード進行を作成できる B.メロディを作成できる C.楽曲のミックスができる D.楽曲のアレンジができる E.フルコーラスのボーカル楽曲を作成できる
授業方法	弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電気電子楽器の中から重要な楽器を取り上げ形状、演奏映像を見ながら構造や演奏方法、音色、特徴を学習。 楽器によってはライブ演奏で実際の響きを体感する。
成績評価方法	学習した楽器のまとめを14、15回目にて授業内発表を行う。 これを60%(知識のほかに感想・思考・自分の作品にどう活かせるかを発表させて評価する) 授業後に提出するレポートや、主に学習に取り組む態度を評価し平常点40%とする。
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	授業内で使用する映像や動画。実演奏。

授業計画	
第1回	長期休暇後のレベルチェック
第2回	実践1
第3回	実践2
第4回	実践3
第5回	制作フォーマット確定
第6回	制作1
第7回	制作2
第8回	ヒアリング
第9回	制作3
第10回	制作 4
第11回	制作 5
第12回	制作 6
第13回	ヒアリング
第14回	卒業発表会に向けて楽曲を仕上げる
第15回	1年間で得た技術で楽曲を作製する。（フルコーラス）

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	サウンドクリエイターコース
授業科目	アドバンスレッスン1
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	下條慧
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	作曲に必要な知識を学ぶための総合的な授業。「作曲ゼミ（週2コマ）」「作曲法」「ミックス」「アレンジ」「楽器レッスン」「コードアナライズ」「卒業制作（週2コマ）」の8つの授業で構成される。 下記に記載されている授業テーマは、前期後期に共通する内容であり、別紙「ベーシックレッスン2」も同様である。 作曲ゼミは個人レッスン、他の授業は全体授業である。
到達目標	A.ノンダイアトニックを用いながらコード進行を作成できる B.メロディを作成できる C.楽曲のミックスができる D.楽曲のアレンジができる E.フルコーラスのボーカル楽曲を作成できる
授業方法	弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電気電子楽器の中から重要な楽器を取り上げ形状、演奏映像を見ながら構造や演奏方法、音色、特徴を学習。 楽器によってはライブ演奏で実際の響きを体感する。
成績評価方法	提出物課題80%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する) 平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。教室使用後は使用した周辺の消毒清掃を各自行う。
教科書・教材	適時、講師より教材を配布する。 ヘッドホン、6.3mmステレオ標準変換アダプター、SSDやUSBメモリ等の記録媒体を持参すること。 また自身のPCを持ち込むことも可。

授業計画	
第1回	楽曲の流通具合、人気のジャンル紹介。テーマに沿った楽曲イメージを調査しまとめる。データの管理方法を学ぶ。
第2回	楽曲制作01：必要な楽器の選別やジャンル、リズムやテンポといった楽曲の大まかな雰囲気をイメージする。
第3回	楽曲制作02：大まかな楽曲の全体像の把握、セクションをイメージする。楽曲の骨組みを考える。
第4回	楽曲制作03：リズムパート（ドラムやベース）パターンをリファレンスし、再現したりアレンジして各自の楽曲に反映させる。
第5回	楽曲制作04：曲の基本となるモチーフを考え、シンプルでわかりやすいフレーズを考える。音色も考慮する。
第6回	楽曲制作05：ウワモノの入力。楽曲のキーやコード進行を考え入力する。 なお、各々の作曲方法により02～05は順不同となる。
第7回	楽曲制作06：制作を継続。全体のバランスを考えながら楽器の配置や演出を考える。
第8回	中間確認。この段階でラフなデモ音源が完成できるよう制作を進める。書き出し音量とファイル形式について。Google classroomでの提出方法。
第9回	楽曲制作07：各楽器パートのブラッシュアップを行う。楽曲イメージに合わせた楽器の演奏方法を模索する。
第10回	楽曲制作08：制作を継続。各楽器のパンニングを理解し配置する。空間系エフェクトを使用し臨場感を表現する。
第11回	楽曲制作09：ミキシング。リズム隊の音量バランスを考える。リファレンス検索。／EQとは。またその使用法。
第12回	楽曲制作10：ミキシング。リズム隊に対するメインパートの音量バランス。またウワモノのバランスを考える。／コンプレッサー、チャンネルストリップとは。またその使用法。
第13回	楽曲制作11：ミキシング。リファレンスと比較し全体調整を行う。／オートメーションとは。
第14回	楽曲制作12：ミキシング。最終工程を行う。書き出し形式やファイル名について。／リミッター、マスターエフェクト、ラウドネスについて。
第15回	楽曲提出。授業内発表とプレゼンテーション、前期のまとめ。

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	サウンドクリエイターコース
授業科目	アドバンスレッスン1
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	下條慧
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	作曲に必要な知識を学ぶための総合的な授業。「作曲ゼミ（週2コマ）」「作曲法」「ミックス」「アレンジ」「楽器レッスン」「コードアナライズ」「卒業制作（週2コマ）」の8つの授業で構成される。 下記に記載されている授業テーマは、前期後期に共通する内容であり、別紙「ベーシックレッスン2」も同様である。 作曲ゼミは個人レッスン、他の授業は全体授業である。
到達目標	A.ノンダイアトニックを用いながらコード進行を作成できる B.メロディを作成できる C.楽曲のミックスができる D.楽曲のアレンジができる E.フルコーラスのボーカル楽曲を作成できる
授業方法	弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電気電子楽器の中から重要な楽器を取り上げ形状、演奏映像を見ながら構造や演奏方法、音色、特徴を学習。 楽器によってはライブ演奏で実際の響きを体感する。
成績評価方法	提出物課題80%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する) 平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	教科書:オーケストレーション(宅美秀俊)・音楽理論ワークブック 毎回レジュメ・資料を配布する。 参考書・参考資料等は、授業中に指示する。 各自、筆記用具やノートと共に持参すること。

授業計画	
第1回	オーケストラ楽器の種別がわかる。
第2回	弦楽器の各楽器についてわかる。
第3回	室内楽・オーケストラの区別ができる。
第4回	弦楽四重奏用トランスクリイビングができる。
第5回	木管楽器の各楽器についてわかる。
第6回	木管楽器の各楽器の特性を活かした名曲を通して使い方を知る。
第7回	木管四重奏用トランスクリイビングができる、
第8回	金管楽器の各楽器についてわかる。
第9回	金管楽器の各楽器の特性がわかる。
第10回	金管五重奏用トランスクリイビング。
第11回	打楽器の各楽器についてわかる。
第12回	室内オーケストラの基礎がわかる。
第13回	室内オーケストラの有名作品がわかる。
第14回	室内オーケストラ編成用トランスクリイビングができる、
第15回	全体のまとめ